



今年度から縄文時代を学ぶ井戸尻学習を始める境小学校

富士見町境小

井戸尻舞台に縄文学習

今年度から地域への誇り育む

富士見町境小学校は今年度「舞台とした縄文学習を始めから、学区内の井戸尻遺跡を」。

全学年が対象で、学年に応じたテーマや内容を生活・総合的な学習の時間などに計画。貫頭衣の試着や飾り玉作り、火おこし体験などを通じて、境地区で生きた縄文人に思いを寄せ、将来地域を誇りに思える児童を育んでいく。

同校の重点

目標の一つ「はてな？」と自ら問いをもち」に沿った学習。縄文土器が作られた理由など疑問を持ち、身近にある縄文遺跡に興味を持って今後

の時代に生きる力や精神を培ってもらうと実施する。学習は、学年が進むごとに縄文人の生活や文化が分かるように内容を設定。1年生では地域探検の一環として考古館を訪れて貫頭衣を着て遊んだり、6年生では実際に発掘活動に参加したりと、徐々に縄文を理解できるようにしている。鹿の角を使った魚釣りや火おこし体験なども学

年ごとに行い、縄文人の暮らしを味わってもらう。給食やクラブ活動などにも縄文要素を取り入れる。縄文人が食べていたと言われる食材を使った給食の提供や弓矢作りのクラブ活動、朝の読み聞かせでは縄文時代をテーマにした作品を取り上げていく。

授業は学芸員のほかに、住民有志のボランティアらの協力を募り、教員と一緒に実施。町のイベントや年度末の学習発表会などで成果を披露する予定だという。林尚之校長は「カリキュラムとして学びの場を設けたいと考えていた。子どもたちが住んでいる場所には素晴らしい歴史があると知って、境地区のことを誇りに思ってもらいたい」と期待を寄せている。

(濱翔貴)